

## 会 議 記 録 (1)

会議名称	北本市幼児問題審議会（第5回）
開会及び閉会日時	平成23年12月20日（火）午後2時00～午後4時00分
開催場所	文化センター 第3会議室
議長氏名	鈴木 眞理子
出席委員（者）氏名	鈴木 眞理子・諏訪 千加子・阪井 栄見子・有田 めぐみ 関野 重信・木村 嶺子・荒樋 美智子
欠席委員（者）氏名	佐藤 正史・鈴木 恵里子・由井 真奈美・柳沢 さつき
説明者の職氏名	こども課長 加藤 啓一
事務局職員職氏名	保健福祉部長 谷澤 暢・こども課長 加藤 啓一 こども課保育担当主幹 鎌田 謙・こども課保育担当 森 美子
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. あいさつ</li> <li>3. 議題 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 答申（案）について</li> <li>(2) その他</li> </ol> </li> <li>4. 閉会</li> </ol>
配布資料	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. （案）公立保育所の整備について（答申）</li> </ol>

会 議 記 録 (2)

発言者	発 言 内 容
議長	<p>1 〔 開 会 〕 2 〔 あいさつ 〕 3 〔 議 題 〕</p> <p>それでは、議題に入らせていただきます。 皆さんのお手元に事務局が作成しました答申の案がありますので、こちらについて事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>答申(案)について、説明を含め読み上げさせていただきます。 第4回の審議会において、議長より答申の素案を作成するように指示されましたので、作成したものがこちらになります。諮問における答申となりますので、このような形となっています。</p> <p>〔 答申 (案) 読み上げ 〕</p> <p>以上が、答申の主文でございます。続く2枚目につきましては、第4回までの審議会において出された意見を4点に集約し、答申に添えるものとして作成いたしました。</p>
議長	<p>事務局より説明していただきましたが、こちらの答申の最終的な文言等のまとめにつきましては、事務局と私に一任してもらうことで、よろしいでしょうか。</p> <p>〔 意義なし 〕</p> <p>それでは、今の事務局の説明について、意見のある方はいらっしゃいますか。</p>
荒樋委員	<p>答申1についてですが、このような答申にして欲しくありません。幼児問題審議会において、中央と栄を統合再編との意見がでていましたので、公立保育所父母の会連合会として、中央保育所と栄保育所へ入所している保護者にアンケートをとりました。こちらの、アンケートの結果を皆さんに配布させていただいてもよ</p>

	ろしいでしょうか。
議長	皆さん、よろしいでしょうか。 それでは、配布してください。
荒樋委員	配布した資料の3ページ以降がアンケート結果となっております。中央保育所は、64世帯中へ配布し有効回答数が60でした。そのうちの56世帯が現地での建替えを望んでおります。栄保育所は、70世帯弱とのことですが、回答数は少なく有効回答数は20でした。この回答数が少ない理由としましては、今まで栄保育所については建替えや整備の話が出ていなかったこともあり意識が薄いのではと思われます。保護者としては、中央保育所につきましては現地での建替えを希望します。充足率の低下などにより公立保育所を縮小するということは、短絡的すぎます。よって、答申にあるような中央保育所と栄保育所と再編の上、定員を見直して整備するということには反対します。
議長	このことについては、いかがでしょうか。
木村委員	答申1についてですが、市は子育てに十分に対応してきたと思います。前回、資料で配布させていただきましたが、平成16年度に公立保育所の運営費が一般財源化され、その後、待機児童対策として平成18年度に幼保一体化施設として、ひまわり保育園とスマイル保育園が整備されました。その後、認定こども園が2園整備され、平成22年度にはもう1園整備されました。市としても当初は、線路を隔てて東と西に1ヶ所ずつとの予定だったのが、深井保育所保護者の反対により深井保育所を閉所することができなくなりました。 せつかく、受け皿としての認定こども園が整備されたのに、深井保育所も存続することとなり、市内保育園の充足率が減りました。市は早く公立の整理を行うべきであったのです。公立保育所の保護者には申し訳ないですが、市の財政も考えると公立保育所の整備は必要ありません。
議長	システムに合わせて市は保育園を増やしたので、早めに充足率の低下を防ぐべきであったということですね。

木村委員	中央保育所の保護者には申し訳ありませんが、これ以上、市民の皆さんの税金を無駄にする必要はないです。保育所整備にかかった費用なども市民の皆さんに知らせるべきであったはずで、税金をどのように使うのか、皆さんに考えて欲しいです。
議長	荒樋委員は、利用者の意見ですよね。立場によって意見が違うのは仕方ありません。
関野委員	私も、前回も話しましたが公立保育所は中核保育所を核として、その他は民間で十分にまかなえろと考えております。あえて、税金を使う必要はないと思います。そのような方向で、もう一度考えていただきたいです。
議長	他の委員の方の意見はいかがですか。
阪井委員	木村委員と関野委員の意見ですと、今後、栄保育所と中央保育所は閉所するというのでしょうか。
木村委員	はい。今後は民間にまかせていただきたいと思います。
議長	今回の答申においては、そこまでは踏み込んでおりません。
阪井委員	皆さん立場が違いますので、どちらも現実に即した意見だとは思いますが、まったなしの事情から市としても審議会に諮問したのだと思います。まずは、市が整備計画を示し、折衷案を考えなければならないのです。 子ども・子育て新システムの中間報告の中には、市町村に対しての5年ごとの計画策定が盛り込まれております。それと、次世代育成支援行動計画で示しているものとのギャップが出てくるものと思われま。それは、時代の変化によるもので行動計画とそぐわなくなってしまうものについては、整合性を図ることが必要です。
事務局	去る6月、国による子ども・子育て新システムの中間とりまとめがありました。幼稚園や保育所といった垣根を取り払うということがメインになっていて、大きく3つに集約されています。一つ目は、仮称こども園から総合施設と名称は変更になったようで

	<p>すが、いわゆる幼稚園と保育所を一体化した施設として2013年度から施行したいとのことでした。二つ目は、低年齢を特化した保育所は保育所として存続させ、三つ目は、大学などの附属幼稚園などを幼稚園として存続させるということです。国も今年度中に、法案を国会に提出予定としていますが、いつになるか未定の状況です。</p> <p>一方で、北本市次世代育成支援行動計画につきましては、平成22年度から始まったものの、この子ども・子育て新システムにつきましては加味されておられません。</p>
議長	<p>国のシステムは1年延びましたが、市町村の裁量が大きいと思われまますので、北本市の現状としては差異があるのではないかという意見だったようですが、いかがですか。</p>
事務局	<p>新システムが導入されますと、各自治体は計画作りを求められると想定しています。</p>
阪井委員	<p>非常に流動的になっていて、今の時点だけをみて賛成、反対とは言ってられないのではないのでしょうか。</p> <p>中核保育所については、北本の代表として存続することになるとは思いますが、民間保育園と公立保育所が同時に存続する必要はあると思います。きちんと役割を異にした保育所とし、民間保育園にもきちんと保育を行ってもらうために、定員についてもきちんとする必要があると思います。</p> <p>声には出ていなくても、このような状態なら働きたいという人がいたりするとも思いますので、市としてより多くのニーズ調査をする必要があると思います。</p> <p>中央保育所は建替えるが、栄については知りません、というわけにはいきません。双方に良い折衷案を提示するために、市としては十分に保護者に対して説明をして欲しいです。</p>
諏訪委員	<p>今の荒樋委員と木村委員の意見ですと、それぞれの立場がありますので、ずっと平行線となってしまいます。これでは答申ができません。私も中央保育所を視察し、あのままでは入所している子ども達がかわいそうだと思いましたが、入所しているお子さんの保護者に聞きますと、初めからあの状態なので平気という意見も聞きました。</p>

	<p>充足率が落ちる中、民間の経営が厳しくなることは分かりますが、どちらかがではなく、どちらからも歩み寄りができれば良いのではないのでしょうか。東側に中核保育所ができますので、西側にも同様のものができれば、北本市としては良いのではないのでしょうか。</p>
有田委員	<p>私も、全くなくなってしまうのはどうかとは思いますが、東側と西側にできるのが一番良いのではないかと思います。</p>
議長	<p>大きな視野に立った意見をいただきました。公立保育所と民間保育園とを住み分けし、譲歩していただくということですね。 それでは、答申につきましては、このままで良いのでしょうか。</p>
荒樋委員	<p>私は、市の次世代協議会の委員となっています。12月19日に行われた会議で、平成22年度事業の進捗状況書がありましたが特定事業の進捗状況として平成26年度は、定員が856名に対し876名と示され、増えていました。現在、少子化の中にあるのになぜ増えているのかと聞きましたが、後期計画を策定する際にニーズ調査を行った結果を目標事業数として設定しているということでした。市として、目標値を876名としているのに、公立保育所を減らすということは行動と違うのではないですか。</p>
荒樋委員	<p>今後、仕事を見つけますという人では現在、保育所に入所することができません。母子家庭の方などでなければ、申込みの際に、実際に働いているか内定をもらっていないと保育所に入所できないのです。単に減らすというのはおかしいです。 公立保育所の人件費についてですが、前回の審議会で木村委員が配布した資料の中に、公立保育所の保育士の平均給与が900万とありましたが、前回の審議会後に行われた父母の会連合会の対市交渉においてこども課へ確認したところ、実際に平均給与が900万も支払われてはいないと回答されました。人件費について言われるのであれば、実際にどのくらいかかっているのか出すことはできないのですか。</p>
議長	<p>事務局より公表は難しいとのことでした。</p>
木村委員	<p>公立保育所も民間保育園も決算があり、それで比べると民間よ</p>

	<p>りも公立の方が2倍以上経費がかかっている、という資料があります。</p> <p>定員の125%入園すれば、お金は入るのです。充足率が下がれば補助金も減り、経営は厳しくなります。税金は、公立保育所のためだけではなく市民のためでもあるのです。</p>
荒樋委員	<p>では、なぜ市は児童館などにあれだけのお金をかけることができるのですか。</p>
木村委員	<p>お金がないのは、認定こども園3園の建設と民間保育園2園の建替えに市がお金をかけてきたからです。それなのに、統合できなかったということです。</p>
荒樋委員	<p>300名の空きがあるということですが、仕事が決まっていない人も保育所の入所をすることができれば充足率は増えると思います。働く人が増え、世帯収入が増えれば、市の財政が増えるのではないですか。</p>
議長	<p>市に入る収入よりも、措置費として市が支出する方が多いのです。</p>
荒樋委員	<p>それでは、仕事しないでいた方がいいということですか。</p>
木村委員	<p>違います。働きたい人が保育園には入っているのです。それでも、空きがあるのです。</p>
荒樋委員	<p>しかし、母子家庭や内定等していないと働きたいということだけでは入れないではないですか。</p>
木村委員	<p>基準がやわらかくなっても、入ってこないのです。</p>
荒樋委員	<p>民間保育園に入園している保護者や幼稚園に預けている方などのニーズはどうなのでしょう。そのようなことも含めて、答申については考え直して欲しいです。</p>
阪井委員	<p>答申の期限がある中で、市がニーズ調査を行うとするならば、この答申にその要望を加えていただけるとありがたいと思いま</p>

	<p>す。今からニーズ調査を行うというのは、期間的に難しいと思います。</p>
荒樋委員	<p>次世代育成支援行動計画の目標があるのに、公立の統合自体がおかしいと思います。</p>
阪井委員	<p>前回、市においてニーズ調査した後に、だいぶ色々なことが変わっているのです。</p>
荒樋委員	<p>ニーズ調査については、平成22年1月に実施されたと説明されました。</p>
議長	<p>答申においても、公立保育所と民間保育園のすみ分けについては含まれています。全ての人が、公立保育所に入所できるわけではないのです。</p>
荒樋委員	<p>民間保育園も定員がたくさんありますから、特性を活かせばもっと充足率は上がるのではないのでしょうか。</p>
議長	<p>それでは、公立保育所が特化されるべきところは、どのようなところだと思いますか。</p>
荒樋委員	<p>民間保育園のように保育料以外のお金がかからないですし、実際に公立保育所が良く、公立を選んでいる人が多いからこそ充足率の差が出ているのだと思います。</p>
議長	<p>それでは、公務員保育士がいて、料金が安いという理由のみで公立4園を存続させることがいいということですか。 アレルギー児や障がい児などの対応をすることができるためではないのですか。</p>
荒樋委員	<p>4園全てが、特化するということではダメなのではないでしょうか。</p>
議長	<p>4園全てを特化する必要はないと思います。</p>
木村委員	<p>公立保育所を、どのように減らしていくかということです。</p>



荒樋委員	なぜ、この幼児問題審議会の委員だけで減らしていくと決めるのですか。
荒樋委員	公立保育所を減らすように、と国が言っているのですか。
議長	大きな流れとして官から民へ、ということです。
荒樋委員	市町村の裁量にまかされているのではないのですか。
木村委員	公立保育所の人員配置と、民間保育園の人員配置には差があるのです。その格差をなくすために補助金を要求したいと考えているのです。北本市の給与は、保育士に限らず鴻巣市より多いのです。そうすると、給与を払うのに市は困るのです。要望は出していますが、難しいのです。そのようなことから、公立と民間は同じ土俵に立てていないのです。
荒樋委員	それならば、公立を減らすより民間保育園に対する補助金を増やすことの方が先なのではないですか。
木村委員	公立保育所自体が減らないと、補助金も増えないのです。先日の議会で、現東保育所についてはどうするのかと聞かれていましたが、市長はすぐに壊すと回答していました。元々は、中央保育所の建替えに仮園舎として利用する予定だったとも言っていました。地域の公園にして欲しいという要望を聞くと、公園にするとう回答していました。 そうすると、中央保育所を現地で建替えするとなると仮設園舎が必要になり、1億円近いお金がかかることとなります。
荒樋委員	それは、建替えがなくなるということと、イコールではありません。
阪井委員	市長でも、やってあげたくてもできないこともあるのです。
木村委員	公立も、民間も同じ市民の子どもを預かっているのです。
荒樋委員	公立同様に民間に対してもお金を出すことと、公立を減らすということはイコールではありません。

阪井委員	市民の税金で行うのだから、有効的に使おうという話しです。保護者の要望があるというのは承って、次をすすめていかなければならないと思います。
議長	答申の文面については、大半の方が支持してくれていると思いますが、いかがでしょうか。
荒樋委員	私は、その大半には入りたくありませんので、反対として議事録に残しておいてください。
議長	続いて、2の審議会の意見につきまして意見はありますか。
阪井委員	ニーズ調査を行って欲しいとの文が、ここにありません。なぜ、ニーズ調査をする必要があるのかということ、今はこう思っているにしても少子化の進み具合で、かみ合わなくなってきた部分で修正することも大切だからです。捉えていた事業の転換や方向換えを要求しているのです。北本のニーズを把握する、ということを入れて欲しいです。
木村委員	出生率も下がっていますしね。
阪井委員	そうです。そのため、早いところで修正をかけることができれば、無駄は少なくなるということです。
木村委員	産んで欲しい、と言われても今の若い世帯は共働きで、くたくたに疲れています。企業が残業時間を少なくするとかしないと、出生率を上げることはできません。
荒樋委員	ニーズ調査は必要だと思います。例えば都内の保育園などでは夜8時まで保育を行っているところがあります。楽に通える施設としてステーションもありますが、利用できるのは高尾と深井に通っている子どものみです。働きやすくするためにもニーズ調査は必要です。
議長	それでは、ニーズ調査の件につきましては議事録に残すということが良いでしょうか。

諏訪委員	2の審議会の意見に入っていた方がいいと思います。文面が入っているからと、すぐに実施することは難しいと思いますが。
阪井委員	ステーション保育については、デマンドバスを利用したりすれば、各園の利用したいお子さんを迎えに行くくらいはできると思います。
議長	ニーズ調査につきましては、2の審議会の意見に含めるということで、事務局には検討していただきたいと思います。その他、意見はありますか。
木村委員	公立保育所でなければ、アレルギー児の対応ができないということはありません。民間保育園でも補助金を出してくれれば、お金をかけ対応することができるのです。
諏訪委員	要するに、お金をかければできるということですね。しかし、どの園でもお金をくれればできるというのはその通りだと思いますが、ある程度アレルギー児をまとめて対応することができた方が効率的だとは思いますが。
木村委員	新年度に向けて見学に見えられた方は、アレルギー児がとても多かったです。だからと言って、人を増やすことはできませんし、一向に保育単価は上がらないのです。だから、お金をかければ民間でもできるのですから、公立はいりません。
議長	しかしながら、虐待を受けた児童への対応などは、経験豊富な保育士がいる公立が担うべきところだと思います。
阪井委員	この答申の中に全部細かな部分まで載せるのではなく、特異な対応を必要とする場合などの方が良いのではないのでしょうか。
木村委員	先ほども、申し上げたようにお金があればできるのです。
議長	今の状況では、費用負担が高額となりできないということですよ。

木村委員	歯科検診にしても、公立は年2回行っているのに民間は1回のみです。放射能検査にしても、公立はホットスポットの測定が行われたのに対して、民間は1回も行ってもらっていません。
諏訪委員	放射能測定については、民間保育園にも希望をとったのでしょうか。
木村委員	いいえ、教育委員会からの便りがきて、なぜ小学校などより低年齢のお子さんを預かっている保育園では行わないのか、放射能測定を行って欲しいと要望しました。
荒樋委員	ホットスポット調査について、なぜ民間の保育園や幼稚園は含まれていないのでしょうか。それは、市の怠慢なのではないのでしょうか。年齢が小さければ小さいほど、放射能に対する感受性も強いのです。なぜ、公立以外は行わないのですか。
事務局	要望を受け止め、担当のくらし安全課へ伝えます。
木村委員	早めに、こども課が行ってくれば良かったのです。小さい子の方が大きく影響を受けるのです。 民間よりも公立が優遇されているのはアレルギー対応保育士や乳児食調理員、保護者駐車場の補助や歯科検診の回数などです。
荒樋委員	市は北本の子どもに、補助金を増やすのは当然だと思います。
議長	民間保育園に対する補助金についても答申に含めますか。
阪井委員	いいえ、補助金等を入れてしまうと内容や関係するところが広がりすぎてしまって大変です。
関野委員	私は、公立は中核で一本化し、あとは民間に任せて欲しいということだけです。しかし、利用される方のことを考えると東と西に一つずつとなるのは仕方なく、必要だと考えます。
木村委員	やはり、公立は市長や議員が以前に決めたとおりに東西に各1園ずつあれば良かったのです。その後、新たに認定こども園ができました。税金を無駄に使って欲しくないです。あるお金で、い

	かに良い物を作るのかが大切なのではないのでしょうか。
議長	<p>これで意見は出尽くしたのでしょうか。</p> <p>この案をもとに、ニーズ調査の件や文言を整理することになりますが、よろしいのでしょうか。それぞれ、答申以上の意見はあるとは思いますが、よろしいですか。</p>
木村委員	<p>深井保育所が閉鎖できなくなってしまったのに、認定こども園を作ってしまったことで皆、困ってしまいました。そのため、公立ができてしまうと民間はやっていけないのです。</p>
議長	<p>北本市の将来を見据えて、ということですね。</p>
木村委員	<p>出生率が減っているというのに、なぜ公立保育所を建てる必要があるのですか。お金もかかります。待機児童がたくさんいるということであれば作るのは分かりますが、そうではありません。</p>
議長	<p>今回の答申は、中央保育所と栄保育所の再編と定員を見直すということを盛り込みました。</p> <p>5回にわたる会議を開催し、答申につきましては、おおよそ骨組みができましたので、事務局と会長に一任ということによろしいのでしょうか。</p>
阪井委員	<p>その後、この案をまとめたものを見せていただきたいです。</p>
事務局	<p>年が明けてから、市長への答申となると思いますが、文面の写しについては各委員の皆様へ送付するというところでよろしいでしょうか。文言の修正や、盛り込む内容もありますので1月に市長との時間調整を行い、答申とさせていただきます。</p>
諏訪委員	<p>大まかな内容は変わらない、ということですよ。</p>
事務局	<p>はい。</p>
議長	<p>最後に、一言ずつ感想などいただけたらと思います。</p> <p>[ 各委員より感想 ]</p>

<p>議長</p> <p>事務局</p>	<p>事務局より何かありますか。</p> <p>また年明けの時期を見て、国の動きなどの状況を注視しながら、諮問2についても審議を考えておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>[ 部長あいさつ ]</p> <p>[ 副会長あいさつ ]</p> <p>[ 終了 ]</p>
<p>議事の内容・概要を記載し、その相違なきを証するためここに署名する。</p> <p>平成 24年 / 月 / 日 委員長(会長) 鈴木真理子</p>	